

コミュニケーション・ネットワークの強度が仕事やタスクの選択に与える影響について

1240485 新納憂大

指導教員 上村浩

研究背景

昨今、働き方改革に関する議論が盛んであり、法制度も進められている。具体的には、働き方改革関連法の改正によって、物流・運送業、医者などの労働時間の見直しが議論となっている。

研究目的

本研究では、人の仕事の進め方は、日常的な「人間関係」の形成の仕方に依存しているかを明らかにすることを目的としている。

研究方法

大学生 23 名を対象にアンケート調査を実施し、アンケート結果に基づいて統計的に分析した。

分析結果

本研究における実証の結果は、日常の人間関係が広く浅い人は、仕事やタスクの選択において、マルチタスク的志向を有することが明らかとなった。

考察・結論

本研究の結果と考察を踏まえると、人間関係において広く浅い関係を好む者は、仕事の遂行プロセスとしてマルチタスク的志向を有し、狭く深い関係を好む者は、仕事のプロセスとしてシングルタスク的志向を有することが示された。つまり、コミュニケーション・ネットワークの強度というものが、仕事やタスクの選択に影響を与えているということが考えられる。この結果に基づけば、例えば職場内のジョブローテーションは、対象者にマルチタスク的志向の業務を期待することに加え、その対象者の人間関係の形成の仕方によってその効果が異なることを示唆している。